

第4回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和6年3月15日（金）14:30～16:30

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 小倉 美保 加藤 義勝 池田 範夫
篠原 泰三 佐藤 広志 宇都木修一

1 開会

2 会長挨拶

3月1日の卒業式は、最後に生徒たちが担任の先生に「ありがとう」と感謝の言葉を伝えるなど非常に感動的な式だった。

3 校長挨拶

卒業式も入試も無事に終了することができ、生徒は修業式前の球技大会に向けて頑張っている。

先日、生徒たちの発表が下野新聞に掲載された。今回の協議会はそれぞれのアンケート結果、どんな1年間だったかがみえてくる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

4 出席者紹介

2名欠席

5 報告事項

(1) 令和5年度学校評価アンケート報告（資料1）

保護者の回答については全体的に昨年度とほぼ同様の結果。6番のボランティアへの積極的な参加の項目が33%→61%と大幅に伸びた。陶器市のボランティア参加の復活が大きい。春は約100名、秋は約80名が参加し、町への貢献も大きかったので保護者への印象にも残った。それ以外には19番のメール配信の項目の評価が良い。学年ごとのメールを配信するなど細かく活用している。15番の学校行事の充実も評価が良い。反対に22番の家庭学習の取り組みはそう思わないの回答が多い。一層の努力が必要と考えている。自由意見については交通マナーや送迎への意見などが多く、学校の課題である。3年間保護者が学校へ行く機会が少なく、次年度は何か参観の工夫が必要だと考えている。

生徒の回答はすべての項目で数%そう思うが増えている。保護者の回答同様6番のボランティア参加が大きく増えた。9番の資格取得、11番の生徒指導、12番のいじめ防止もそう思う割合が多い。8番の授業のわかりやすさが8%増加。生徒に合わせて工夫している授業が評価された。11番の適性をいかした進路指導も8%増加。1年生も丁寧な指導を受けながら自分の進路にあわせてコースを選んでいる。

(2) 令和5年度学習に関するアンケート報告(資料2)

QRコードを利用しスマホで無記名にて実施。各学年で比較できるグラフ化にした。計画的に行う生徒は少なく気分次第が多い。特に2年生が中だるみしている。1年生は中学校の延長で学習の習慣が残っており、3年生は進路に向けて頑張り始める。提出課題を増やして家庭学習に取り組ませている。

定期試験の学習計画を立てるのが苦手な生徒が多い。スマホやテレビに気を取られてしまう。テスト前日や全く勉強をしないでテストを受ける生徒も20%いる。

検定については例年どおり。複数の資格取得にむけて頑張っている。

本校生は本格的に進路を考え始める時期が遅い。外部講師を招いてガイダンスをする等進路関係の行事を多く企画している。面接練習や志望動機の手書き方など実践的なことを学ばせている。

8割の生徒はコース制に満足している。今後もコース内、専門教科内で工夫していく。

(3) 令和5年度進路状況報告(資料3)

在家4名は公務員受験者(警察官)、他は声優を目指す養成所希望など。令和2年度から公務員に積極的に取り組み、月1回のペースで特別講座を実施している。コロナ禍で公務員志望が増えることを予想して企画した。

就職内定率は100%。9割は製造業で他は小売・サービス業など。就職者が進学者を上回る傾向が続いている。コロナ後の不況で経済的なことが関係しているのかどうかは不明。進学先へのアクセスが悪い地域に在住している生徒が多く、自家用車を購入するなら進学より就職と考える家庭が多いのではないかと。上級学校からの就職と高校からでの就職では高校からの方が大手に入りやすいとの認識が広まっている。求人数は約1700件で去年の1.5倍。生徒は大手企業への希望が多い。

進学は指定校推薦が多く、特待制度などに挑戦し出来るだけ費用を抑えようとしている。大学入試共通テスト2名受験。

(4) 令和5年度学校運営の総括(資料4)

○生徒の自己実現に向けた教育活動の充実

4つの重点目標のうち●がついているものが特に重要。(1) わかる授業の展開については学校評価のアンケート結果からもわかるように90%以上の生徒に肯定的な意見をもらっている。何度か授業の見学をしたが、1時間座っての座学ではなく隣の席の人とのペアワーク、更に色々な教科でタブレットを使用している。アクセスポイントを増加してつながりやすくなった。普通科の学校はパソコン教室のパソコンは撤去されてタブレットのみになっているが、本校はパソコン室にはデスクトップのパソコンが人数分あり、両方活用できる。こういったことが(2)の主体的な活動を促

すことにもつながっていく。次年度以降、工夫を他教科に横展開し全体で共有していく。

○生活習慣の確立と規範意識の醸成

規則の明確化については生徒の実態に合わせて丁寧に実施している。交通マナーについては地域の住民の方から何度も指摘があるので繰り返し指導している。

次年度より通級指導が始まる。生徒の困り感に合わせて対応する。特別支援教育の教員1名と、本校の特別支援コーディネーターと2名体制。今年度、通級指導は県内で黒羽・那須・日光明峰・馬頭の4校。

○特色ある教育課程の編成と実施

3学級特例校で単位制の導入によって生徒が減っても職員数が減らない。習熟度別や1つの授業を2人の教員で担当するなど手厚くサポートする。今までのコース制の良さをいかしながら更に発展させる。

○地域とともにある学校づくりの推進

新聞社などに取材してもらい積極的に外部にPRしてきたが、まだまだ足りない状況である。来年度入学生は120名定員のところ98名。厳しい状況である。広報活動に力を入れていくので知恵を貸してほしい。

(5) 意見交換

○ 高校生の交通マナーなど、良い状況に向いてきていると感じているが、まだまだな部分もある。中学校の立場から見ると益子芳星高校の生徒はどうか。

○ 中学生と通学の時間帯が違うので出会う機会が少ない。自転車の乗り方などルール違反は時々あるが基本的にはきちんとしている。先日の卒業式に参加して、卒業生の最後の挨拶や吹奏楽部の心のこもった演奏など生徒の気持ちが伝わってきた。

学校評価のアンケートは気になる人が書くので悪い意見が目立つ。芳賀郡の高校は殆どが定員割れで中学生が足りない。不登校傾向の生徒が増加し、病気等の事情のある生徒は早めに通信やサポート校に進路を決める傾向がある。宇都宮方面の高校への志向が高まっている。真岡への志向も強い。地域を盛り上げる生徒が育ってほしい。頑張っている生徒の姿がもっと伝わると良い。

○ 定員割れはこれからもっと増える。益子町の出生数が60名だと1つの中学校に20名くらい。1クラスにも満たない。不登校の子供たちも増えこれだけ多様化していくと高校の存在そのものを考えていかななくてはならない。私立高校は選んでもらうために色々手を尽くしてきた。県立ということに胡坐をかいていられる状況ではない。地域とのつながりなど他の学校にない魅力を広く知ってもらい、人間的に成長できる学校というPR

が必要。

- 他校より勉強が苦手な子が多いが素直な子が多い。将来をよく考えている。企業が求めている資格を取り入れて合格させることが子供たちのやる気につながる。

服装指導が厳しいのは良いことだが、子供の目からみて平等でなければと思う。保護者としては安心して通わせられる学校だと思っている。

- コース制に好意的な意見が多いが、自分が選んだコースに興味関心のもてる科目がないと回答している生徒がいる。ここまでコースを整えたのであればもっと特化してもよいのではないか。
- コース制の説明はわかりやすいと思う。生徒が地域に果たしている役割は大きい。入学してよかったという割合が上がっているのは評価できる。定員割れはここだけの問題ではない。学習のアンケートで2年生が中だるみで3年生になってまた頑張り始める傾向は例年のことなのか。
- ほぼ毎年の傾向であり、本校だけでなく全体的な傾向である。

本校の良さをどのようにPRしたらよいか。中学校へ訪問しスライドなどを用いて説明をしたり、市貝町の芝桜祭りに吹奏楽部やダンス部が参加したりして活動を広げている。のぼり旗をつくりボランティア参加の時などに広報している。さらに何かアドバイスをお願いしたい。

- 長男の時と比べて学校の印象が変わった。看護師や保育士になりたい生徒が益子芳星高校に行ってそのルートで進学するというはっきりしたイメージがあった。

茂木町の子は行けるなら茂木高校に行きたいと思っている。茂木高校へ行って進学するというイメージを持っている。益子芳星は3年間何をするか具体的なイメージがわかっていない。保護者も状況を分かっていない。通ってみて初めて良さがわかるので、上の子を入学させて学校の良さがわかり、下の子を入学させている家庭がとても多い。

- 学校評価のアンケート結果で益子芳星に入学してよかったの項目、生徒の数値より保護者の数値が低い。保護者に特色と良さを知らせることができると良い。
- 保護者は高校からの出口を考える。出口の特色が詳しくわかると良い。益子芳星の規模で6コースを維持するのは大変ではないか。インターンシップは高校では一般的なことなのか。
- 専門高校は100%実施しているが普通科で実施している学校は少ない。
- 生徒自身から、自分の選んだコースからこのような進路を選びましたという情報を発信するとよい。
- コースの特色ある学びに専門的な外部人材を上手く使えるとよい。
- 仕事で複数の学校と取引がある。どの学校を訪問しても生徒自体は変わ

らないと感じている。卒業するときに満足しているか、保護者がどれだけ満足しているかが重要。益子芳星を卒業した自信が次世代につながっていく。ボランティアの様子を見ていると自慢できる子供たちだと思う。県外や近隣の観光客が「高校生たいしたものだ」という意見をくれる。

- 観光客が「どこの高校のボランティアですか」「しっかりしてますね」「親切ですね」と褒めてくれる。自信を持つことは強みになる。何回もボランティアなどを繰り返すことによって強い自信になる。
- 生徒が自信をもって学校の良さを伝えてくれることが最高の PR になる。どうしても評価はマイナスのところに目を向けてしまうが、良いところは更に伸ばせると良い。

6 その他

学校評議員の任期は2年。今年度初任と再任でお願いしたので、次年度も継続ということになる。

本日いただいた貴重なご意見を来年度に活かしていく。